

全国高等学校囲碁選手権大会の全国大会・各都道府県大会ならびに全国高等学校囲碁選抜大会におけるアイゴ等(視覚障がい者用碁盤・碁石セット)使用に関する規定及び運用

(令和6年7月6日作成、令和7年3月20日改訂、令和8年3月12日二訂)

標記の大会の、「視覚障がい者用碁盤・碁石セット(「アイゴ」および「アイゴツ」等、以下「アイゴ等」とする)に関する規則および運用は、令和8年8月開催の第50回大会全国大会より以下の通りとする。また、全国高等学校囲碁選抜大会についても、令和8年3月開催の第20回大会より本規定及び運用を準用するものとする。なお、各都道府県大会における段級位認定戦および初心者大会については、この限りではない。

(1) 趣旨

一般に視覚障がいをもつ選手の大会参加の権利を確保することを目的とする。また、この規定を全国高等学校囲碁選手権大会特設 HP および全国高等学校囲碁選抜大会 HP にて掲載し、すべての選手が事前に閲覧できるようにする。

(2) 使用の申請について

ア 「全国大会」ならびに「各都道府県大会」に参加する、視覚障がいをもつ選手(以下「当該選手」)が希望する場合、大会申込締切日(都道府県大会:各都道府県による、全国大会:通常6月末日。なお全国高等学校囲碁選抜大会にあつては通常1月末日)までに大会事務局に申し出ること。

イ 大会事務局が当該選手は通常の碁盤での対局が困難であると判断し、かつ都道府県大会での使用実績がある選手に限り、対局用の碁盤として「アイゴ等」を使用させることを許可することができる。ただし台数の関係で必ずしも認められない場合もある。また、全盲かつ音声による意思疎通が難しい等、受け入れ側の態勢上困難な場合は、参加を制限する場合もある。

(3) 「アイゴ等」を使用する場合の対局の条件

ア 事務局は必要があると認めた場合、通常の碁盤に代えて「アイゴ等」を用いた対局を指示することができる。なお秒読みでのトラブル等を避けるため、1名の審判を配置する。

イ 「アイゴ等」を使用する場合は、秒読みに入る前であっても、「Pause」ボタンを押して対局時の進行を止め、石を取り上げてから再度「Pause」ボタンを押して対局を再開させることができる。

ウ 秒読みに入ってから、着手しようとしたにもかかわらずうまく石を着手点にはめることができなかった場合は、「Pause」ボタンを押して時計を一時的に止め、着手した石をきちんとはめることができる(ただし「Pause」ボタンを押す前に「10」をコールされた場合は、時間切れ負けとする)。

なおこの場合に限り、「Pause」ボタンを再度押して再開してから自分のボタンを押す前に対局時計の表示が「End」になった場合は、「End」にならなかつたものとみなして、選手が着手した石をきちんとはめた後、対局時計の時間を調整し、対局を再開する。

(4) 対戦相手への通知

ア 組み合わせ抽選の結果、1次リーグおよび決勝トーナメント1回戦で当該選手と対戦する可能性がある選手に対しては、大会開催日1週間前までに各都道府県の事務局を通じて、当該選手と対戦の可能性があること、および「アイゴ等」を使って対局する可能性があることを通知する。(ただし全国高等学校囲碁選抜大会にあつては、対戦の可能性のあるすべての選手に、同様の通知を各ブロック代表を通じて行う。)

イ 上記の選手に対しては、全国大会当日の開会式の前に集ってもらい、大会本部の役員から「アイゴ等」の使い方を説明する。

ウ イの説明を行い、かつ上記(3)の「対局の条件」を示したうえ、各選手に「アイゴ等」を使用して対局を行うことを説明する。

エ 団体戦または個人戦で当該選手がベスト8に進出した場合は、対局の可能性のある選手すべてに、準々決勝が始まるまでに上記ア～エと同じ要領で説明を行う。